

令和 3 年 2 月 16 日

大熊町夫沢地点の土壤採取地の変更について

福島県環境創造センター環境放射線センター

1 概要

- 大熊町夫沢の土壤採取地で中間貯蔵施設の整備工事が開始されることから、新たな土壤採取地を選定し、現採取地と核種濃度の比較を行った上で、令和 2 年度第 3 四半期より新たな採取地での測定を開始した。

2 新たな採取地の選定

- 新たな採取地は、福島第一原子力発電所からの新たな放射性物質の放出を継続的に監視できるよう、次の 4 点を考慮し選定した。
 - ① 大熊町夫沢地点内であること。
 - ② 現採取地の近傍（概ね 1 km 以内）であること。
 - ③ 福島第一原子力発電所からの方角が現採取地と同方角（概ね西南西～南南西）であること。
 - ④ 放射能測定法シリーズ「環境試料採取法」に準じた採取地であること。
- しかし夫沢地点では、各地で中間貯蔵施設整備関連の工事が行われているため、同地点内での選定が困難なことから、同地点に隣接した小入野地点内で、上記②～④を満たす採取地を選定した。
- 選定した採取地は次のとおり。

表 1 土壤採取地点新旧対照表

	新	旧
地点名	大熊町小入野	大熊町夫沢
採取地	大熊町大字小入野字東大和久	大熊町大字夫沢字東台
福島第一(発)からの方角・距離	南南西に約 2.7km	南南西に約 1.7km



国土地理院標準地図を加工して作成

図 1 新たな採取地の写真（左）及び福島第一原子力発電所との位置関係（右）



図2 新たな採取地（大熊町小入野地点）詳細地図

3 新たな採取地における土壌の核種濃度分析結果

土壌の核種濃度測定結果は表2のとおり。新たな採取地のCs-134及びCs-137の核種濃度は、現採取地の約2倍の値となった。

表2 核種濃度測定結果の比較

	採取日	核種濃度* ¹ (Bq/kg 乾)		空間線量率* ² (μ Sv/h)
		Cs-134	Cs-137	
現採取地	R2. 5. 18	10,000	190,000	13.6
新採取地	R2. 6. 29	17,000	320,000	9.02

*1 上記以外の人工放射性核種は検出されていない。

*2 現採取地は事故以降に除染は行われておらず、事故時の状態が保たれた土地となっている。一方、新採取地も除染は行われていないが、採取地の東側において町道や土地の除染が実施され、除染後の土地には新たに建物が建設されていることから、空間線量率が低くなっていると推測される。